

四日市港管理組合議会ニューズ

Yokkaichi Port Authority Assembly

第52号(平成30年11月発行)

平成30年3月20日(火)に平成30年第1回定例会が開会され、3月29日(木)に一般質問と議案9件の審議が行われました。

一般質問では、樋口龍馬議員(四日市市議会選出)と服部富男議員(三重県議会選出)が下記のとおり管理組合執行部の見解を質しました。

主な質問・答弁要旨

樋口 龍馬 議員



○ **四日市港において、貨物・旅客の双方を伸ばしていくためには、安全・安心の面でも、貨物と旅客の動線の分離が将来的には必要と考えるが、見解を聞きたい。**

◎ 貨物と旅客の動線を完全に分離するためには、例えば旅客船専用埠頭があるほうが望ましいものと考えているが、平成30年の四日市港への客船の寄港予定は十数隻であり、利用頻度の低い旅客船専用埠頭の整備については、投資効果の面で難しさもあると認識をしている。

四日市港港湾計画においては、四日市地区に旅客船埠頭計画として、岸壁等を整備することとしているが、この岸壁は旅客船専用ではなく、貨物も取り扱うこととなっており、貨物と旅客の動線の分離という要請に十分こたえられるものではない。

当面、客船への対応としては、霞ヶ浦南埠頭において、長さ300メートルを超える客船の寄港を可能とするための既存岸壁について、国との調整を図っており、今後も客船の受入に当たっては、港湾活動に支障のないよう、港湾事業者や荷主企業の皆様としっかり利用調整を図っていく。

服部 富男 議員



○ **平成30年度に向けて、四日市港の取組への管理者の思いを伺いたい。**

◎ 現行の四日市港戦略計画の成果として、ポートセールスの取組や港湾整備による四日市港の利便性の向上により、四日市港の外貿コンテナ取扱個数が過去最高となった。また、四日市港BCPの策定や海岸保全施設の護岸補強等で防災力の向上に努めるとともに、陸上電力供給施設を整備など環境対策や、外国客船の誘致実現をした。また課題としては、外貿コンテナ取扱個数は現行戦略計画の目標には至っておらず、南海トラフ地震発生の緊迫性が指摘される中、防災体制のさらなる充実、老朽化が進む港湾施設の計画的・効果的な維持管理などが必要であるとともに、親しみを市民・県民の皆さんに感じていただく港となるためには、たゆまぬ努力が必要である。

これらを踏まえて、平成30年度は現行戦略計画の最終年度としてしっかり取り組むとともに、霞4号幹線等四日市港へのアクセスや、外国客船の寄港、海運をめぐる国際的な動向など変化への柔軟な対応や、柔軟な思考で物事を見ていく必要があると思っている。

※詳細な質問答弁等については、当組合議会ホームページ会議録をご覧ください。